

# 【 第6回 東アジア選手権(U-22) 】

2018年7月3日～7月8日 開催地:香港

## 試合結果報告

7 月 4 日 ( 水 )

| JPN | VS | MON(モンゴル) |
|-----|----|-----------|
| 21  | 前半 | 8         |
| 24  | 後半 | 5         |
| 45  | 合計 | 13        |

### 個人得点

| 名前          | 得点 | 合計 |
|-------------|----|----|
| 1 石 濱 壘     |    | 0  |
| 2 佐 藤 陽 太   | 2  | 2  |
| 3 久 保 寺 步 夢 | 1  | 1  |
| 4 可 児 大 輝   | 3  | 3  |
| 6 窪 田 礼 央   |    | 0  |
| 7 安 平 光 佑   | 3  | 3  |
| 8 清 水 裕 翔   | 4  | 4  |
| 9 吉 田 守 一   | 7  | 7  |
| 11 藤 川 翔 大  |    | 0  |
| 12 矢 村 裕 斗  |    | 0  |
| 13 角 本 洵    |    | 0  |
| 14 山 口 直 輝  | 4  | 4  |
| 15 石 嶺 秀    | 7  | 7  |
| 16 大 禮 佑 介  |    | 0  |
| 18 梶 山 瑞 生  | 3  | 3  |
| 19 金 津 亜 門  | 5  | 5  |
| 25 蔦 谷 大 雅  | 6  | 6  |
|             | 45 | 45 |

### 戦評

第6回U-22東アジア選手権、日本チームの第2戦はモンゴル。昨日のスカウティングでは、技術的なレベルは高くないものの、ファイティングスピリットあふれる激しい攻守が特徴的であることを確認。このゲームでのキーワードは、コート上でのコミュニケーション、バックチェックのポジショニング、DFでのファーストコンタクトの強度、OFでの2人目・3人目へのつなぎの4つ。そして、アップ前に植松監督から日本を代表して戦うことの意味・姿勢、そして代表選手に求められる姿の話をされ、モチベーションを最高潮にモンゴル戦に臨んだ。

試合はモンゴルのスローオフで始まる。いきなり虚をついたシュートを放つが、これを昨日試合出場のなかったGK八村が反応、それを速攻でつなぎ、佐藤がシャープなミドルで決める。その後も、角本・吉田を中心としたDFで凌ぎ、金津・可児・石嶺の速攻につなげ、前半5分には4-0とする。その後も安定したセンターラインのDFが失点を最小限に抑え、攻めては石嶺・蔦屋・可児の連続速攻、さらに久保寺のロング、金津のカットインでリードを広げる。そして、可児・蔦屋・金津がWスカイを決め会場を沸かせ、前半を21-8で折り返す。

後半スタートは、清水の速攻、安平のタップパスからの吉田のポストで加点。焦りと疲労からラフになるモンゴルDFに対し、冷静に対応。センター安平のコントロールから、山口・吉田・石嶺・梶山が生かされ追加点。安平は自ら得た7mTでも一回転するシュートで会場を沸かした。45-13で勝利、失点は15点以内という目標も達成できた。明日はフル代表選手を要する台湾代表である。厳しい戦いが予想されるが、チームの心を一つに、まずは一つ目の困難を突破したい。

なお、この試合のベストプレイヤーには蔦屋大雅が選ばれた。

報告記入者 :

吉田耕平